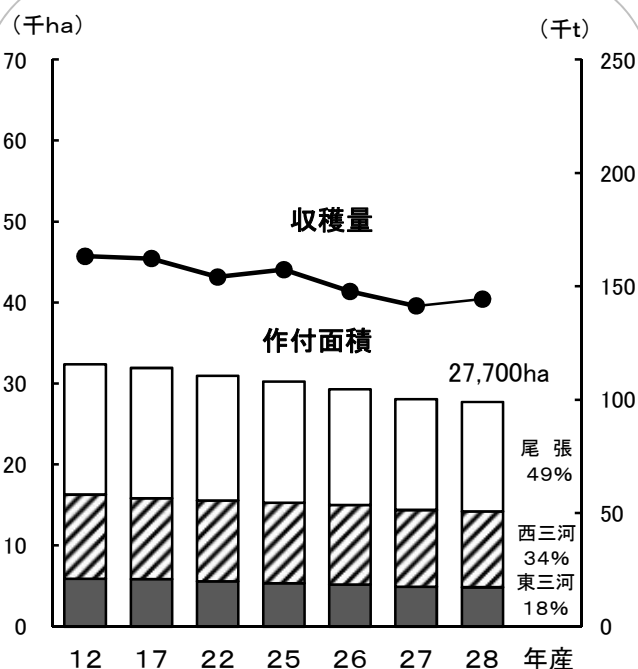


稲(米)・麦・大豆

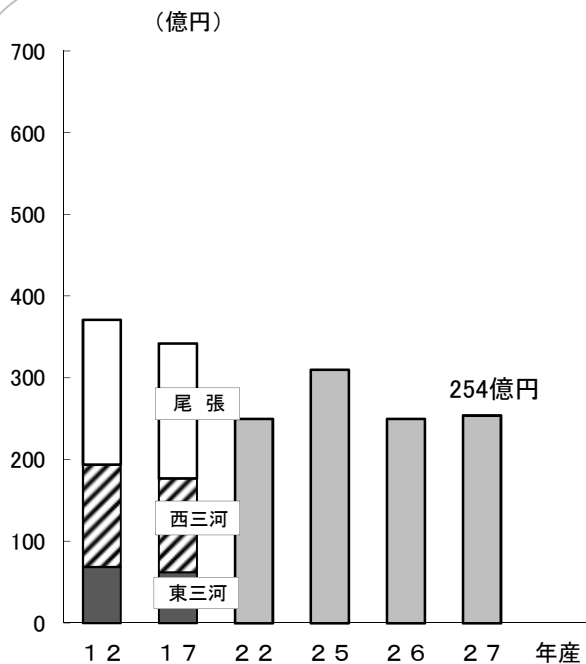
《稲作付面積と収穫量の推移》



(出典: 作物統計)

稲の作付面積は減少傾向であり、平成28年産は前年産に比べ400ha作付けが減少したが、収穫量は144,300トン(作況指数103)で前年より3,000トン増加した。

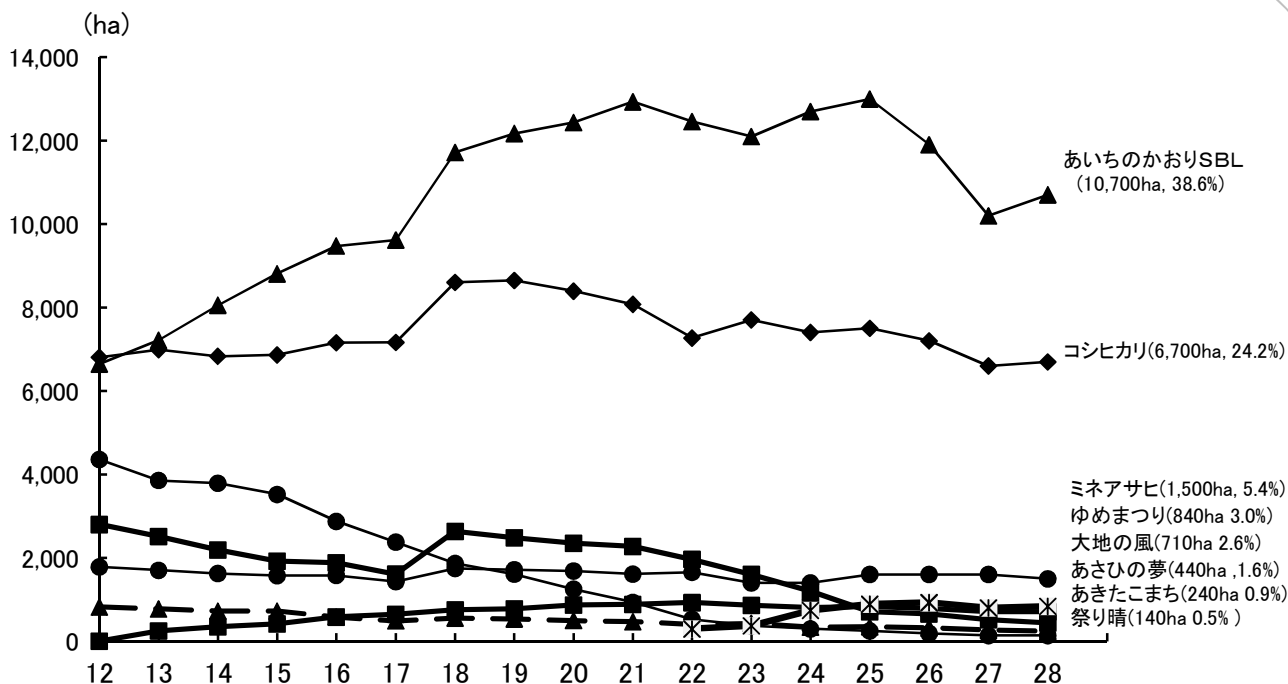
《米産出額の推移》



(出典: 生産農業所得統計)

平成27年産は前年産より、産出額は4億円(1.6%)増加した。

《稲主要品種の作付面積の推移》



(出典: 東海農政局食糧部資料等)

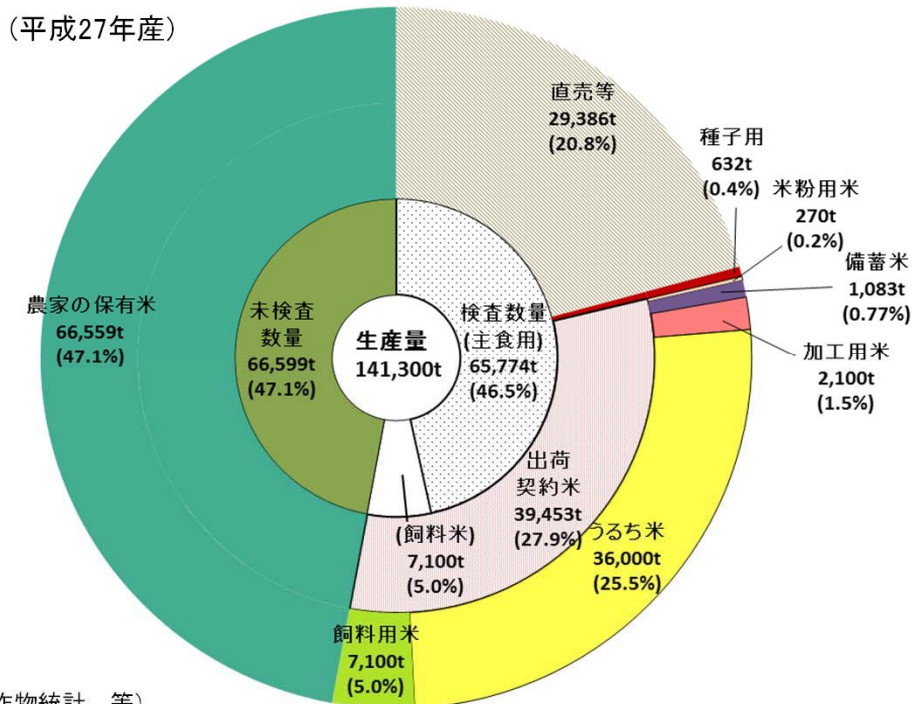
注: 「あいちのかおりSBL」には「あいちのかおり」を含む。

「あいちのかおりSBL」の作付面積は、平成13年産から県内第1位で、28年産は県全体の約4割である。「あいちのかおりSBL」と「コシヒカリ」の合計作付面積は県全体の約6割を占める。

品種別作付面積は、17年産までは作付面積10a以上の生産者を対象とした「品種別作付状況調査結果」(農林水産省調査)に基づく水稲作付面積の内数である。

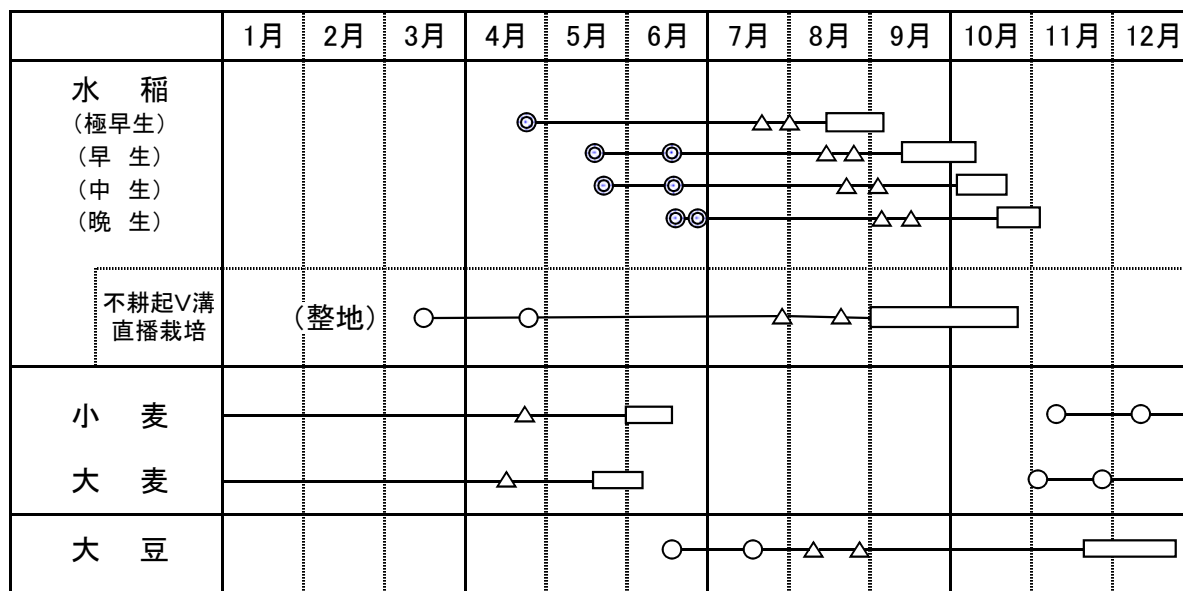
18年産からは本調査が行われなかったため、水稲共済引受面積を基に県園芸農産課で推定した。

《愛知県産米の流通比率》



県全体の生産量141,300トンに対し、検査数量は約5割の65,744トン。
 出荷契約米：契約により農協系統を通して集荷された米。

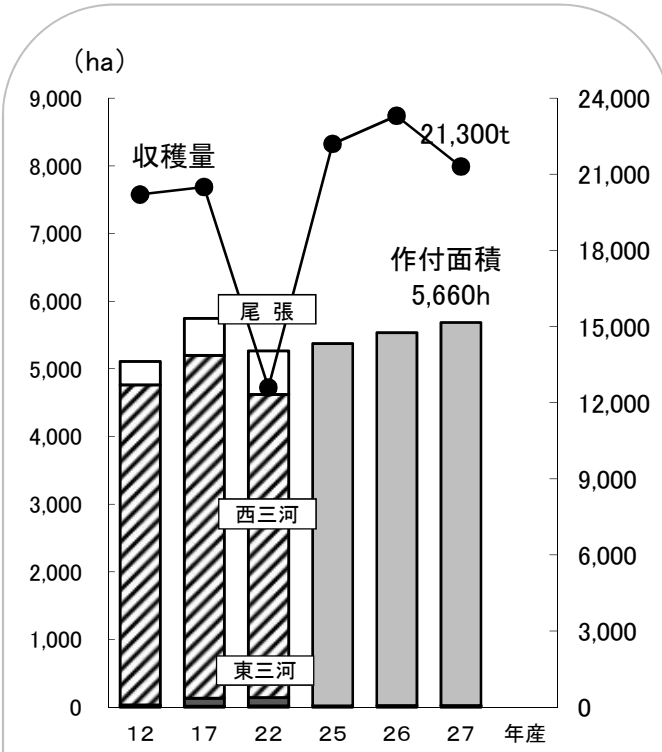
《稲・麦・大豆の作付体系》



凡例：○ 播種 移植 △ 出穂/開花 収穫

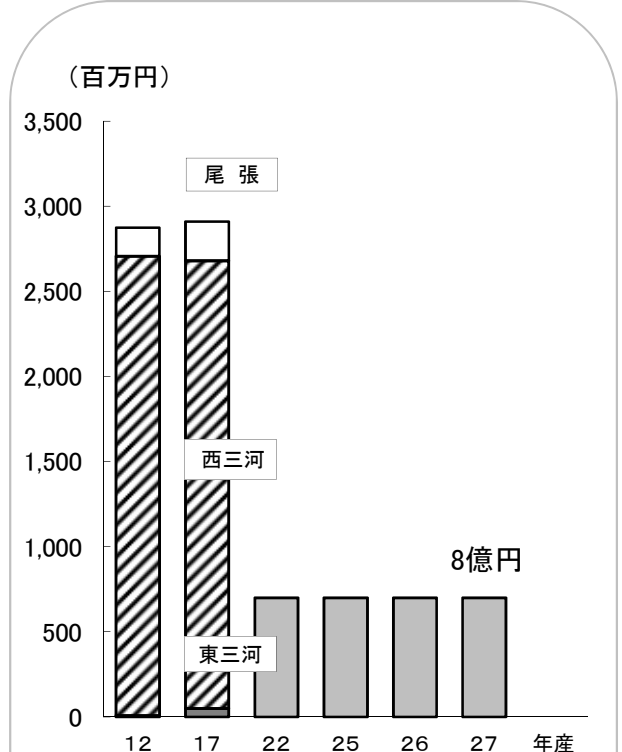
注) 水稻の早晩生別作付面積の合計と作付面積(県計)とは一致しない。

《麦類作付面積と収穫量の推移》



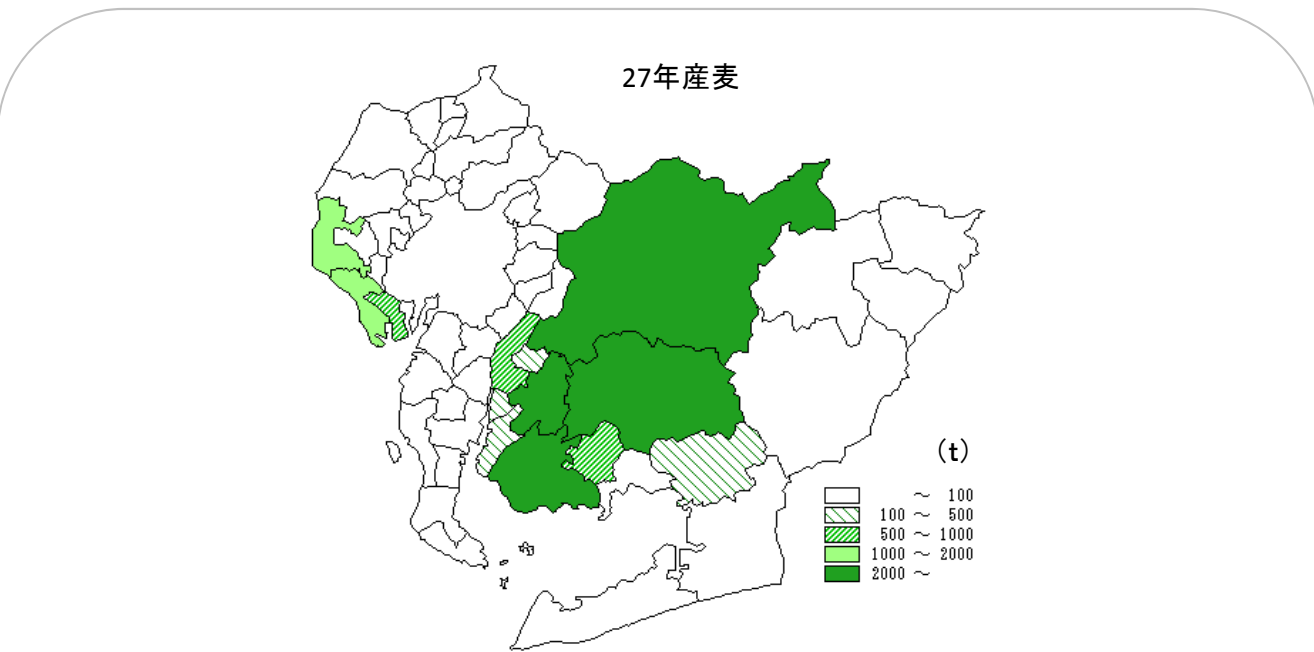
(出典：作物統計)
 経営所得安定対策等の推進により、麦は転作作物として定着している。平成27年産は前年産に比べ作付面積は増加したが、播種期の降雨、登熟期の乾燥等により、豊作であった前年産に比べ収穫量は減少した。
 平成24年産から地域別作付面積は未公表となったため、県全体面積とした。

《麦類産出額の推移》



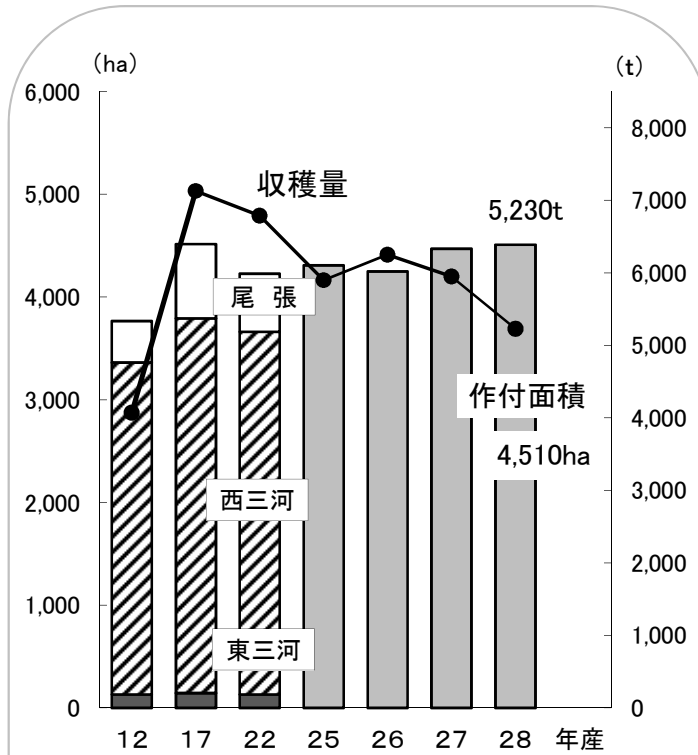
(出典：生産農業所得統計)
 平成19年産以降の産出額の大幅な減少は、経営所得安定対策等の助成金額が算入されないことによる。
 なお、平成19年以降の市町村別産出額が未公表のため、県全体額とした。

《麦の市町村別収穫量》



(出典：作物統計)
 小麦は西尾市、安城市、豊田市、岡崎市など主に西三河地域で、大麦は大町町で生産されている。

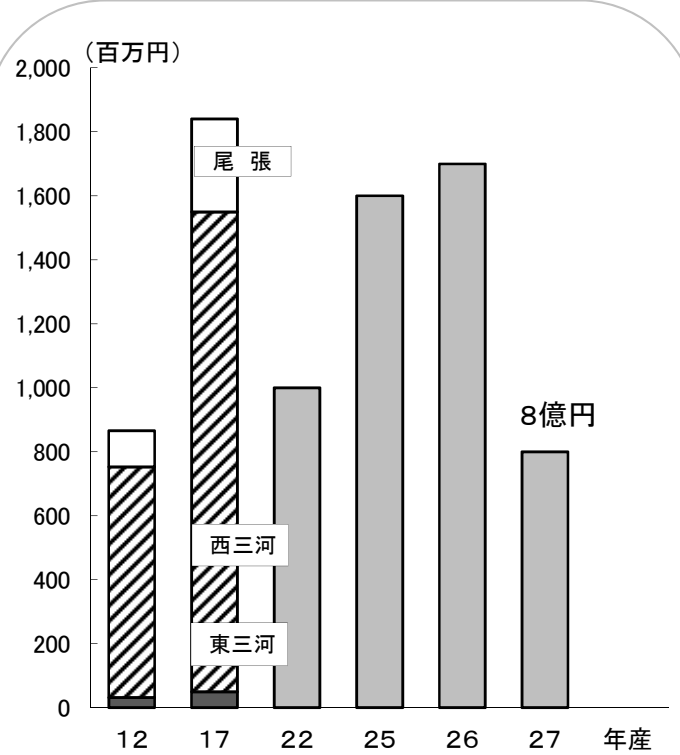
《大豆作付面積と収穫量の推移》



(出典：作物統計)

経営所得安定対策等の推進により、大豆は転作作物として定着している。平成28年産の作付面積は前年より40ha増加したが、登熟期の天候不順により、収穫量は減少した。平成24年産から地域別作付面積は未公表となったため県全体面積とした。また平成28年産は平成29年2月時点の速報値である。

《大豆産出額の推移》

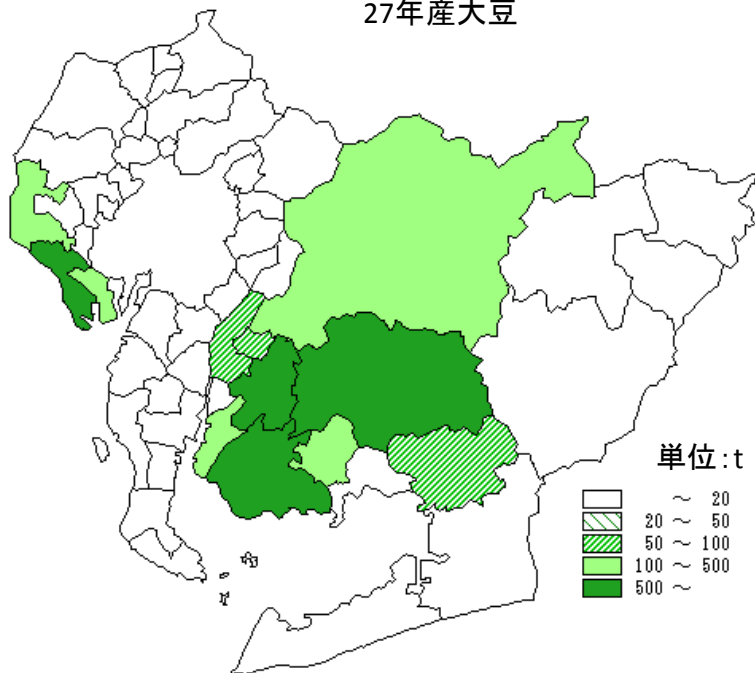


(出典：生産農業所得統計)

平成25、26年産の産出額は、大豆価格の高騰を受けて高くなっている。平成19年産以降の産出額は、水田経営所得安定対策の固定払部分が入算されないため、大幅に減少している。なお、市町村別産出額が未公表のため、県全体額とした。

《大豆の市町村別収穫量》

27年産大豆



(出典：作物統計)

大豆は西尾市、安城市、岡崎市などの西三河地域、弥富市などで主に生産されている。